これをファンタジー小説と呼んでもいいですか？

シー（やっぱりウザイのでシー様の様を外してみた元シー様）

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
これをファンタジー小説と呼んでもいいですか？

【Ｎコード】
Ｎ７６９８Ｊ

【作者名】
シー（やっぱりウザイのでシー様の様を外してみた元シー様）

【あらすじ】
記憶喪失の男の人生は浜辺から始まる。

作者の実験・・・（前書き）

挿絵に頼る小説ですので携帯ユーザーは多分読めません

m（＿＿）m

作者の実験・・・

ここは何処だ？

そして・・・

私は誰だ？？

男は記憶喪失。名は不明。

覚えているのは、標準的な言語以外、何一つ無い。

海に溺れたのだろうか浜に打ち上げられていた。

そして謎の物体ＸＸＸを手に持っていた・・・

＞ｉ４２７６―７４２＜

ｂｙ：ｔｉｂｃｈｒｉｓ

男は、今現状を把握しよう勤める。

言語はシッカリ使える。

記憶は生きてきた思い出や人生等を忘れているだけで他は正常。

着ている服は、どこにでもある様なユニクロっぽい服。年齢は３０

前後。
そして手に握っている物は、堅くて黒くて長さは２０ｃｍ程、で光沢がある棒。
それ以外に何も判らなかった・・・

記憶が無い事とココが何処で、どんな場所であるかさえ判らない。
その現実が男を恐怖させる。
男は、まずは、自分の身の安全を確保する事とした。
必要なのは・・・人に助けを求める事。
男は、とりえず浜を抜ける為に道を探す。

男は階段の様な道を見つける。
浜にある階段は人口的に作られたもの。
男は、ほっと胸を撫で下ろす。
もし、ここが無人島だったら危険度が更に上がるからだ。

階段を上り中盤まで来た所で、男は気付く。
上を見上げたら、黒い物体があることに・・・

その黒い物体は、大きな牙を持ち、涎を流している。
この世の者とは思えない化け物がそこに居たのである。

「殺される」

男は、とっさに感じ取った。

奴の眼は、明らか獲物を捕らえた目だったのである。

「逃げたい！」

だが、男には、それができなかった。

野生の動物に背を向けたら動物は襲うという習性を知っていたからだ。

記憶が戻った訳ではない。

男は、何となく、逃げない事が最善であると感じとっていたのだ。

男は、ゆっくりと、奴と目を合わせたまま、階段から足を外し、危険な足場、崖の方へと向かう。

足場は、ゴツゴツしている。

奴には容易に近づけないとでも感じ取ったのだろうか・・・

だが、奴は、躊躇無く襲いかかってきた。

男はとっさに、着ていた服を奴に投げつけた。

そして全速力で駆けた。化け物が服に気を取られている隙に死に物狂いで逃げたのだ。
１ｋｍ　２ｋｍ　奴の視界から完全に消えたとしても安心できない。
男は、無我夢中で走り続けた。

男は、どこをどう走ったのかは、覚えてない。
道なりに、ただ進んだだけである。

＞ｉ４２７７―７４２＜
ｂｙ：Ｕｎｈｉｎｄｅｒｅｄ　ｂｙ　Ｔａｌｅｎｔ

男は、歩き続ける。

数時間、男は、尚も歩き続ける。
だが、人子一人居ない。

諦めかけたその時、村を見つけた。

だが・・・

荒れ果てている。
人は一人もいない。

そしてなぜか、インフラが無い。
送電線もない。それは、いかにもＲＰＧの世界観にあるような感じ・・・
水道ガス、電気が無いわけで、トイレも無い。食料も無い。水系も干上がっているのか何も無い。

人は一体、どうやって生活しているのか？　という疑問を残す村である。
村の感じもＲＰＧに良く出てくる民家等の集合体である。
荒れ果ての感じも、まるでモンスターが現れて村を襲ったかの様な感じである。。

男も、その事を感じずには要られないが、男にとっては、そんな事よりも助けを求めらる人が居ない事、食料が無い事を絶望していた。

絶望の真っ只中で、男は村はずれに塔を見つける
男は、そこに希望を感じ最後の力を振り絞り目指した・・・

＞ｉ４２７８－７４２＜

ｂｙ：ｌｅｆｔ－ｈａｎｄ

塔の中は明かりは無い。
当然、電力設備の様なものもない。
あるのは、蝋燭を立てかけるだろうスペースのみ。
男は、塔にテッペンにのぼり。視界を見渡す・・・

綺麗な湖を見つけた。

山を降りた遠くの先１０ｋｍくらい先の一面森の中にある。

男は、喉が渇いている。
村の水は干上がっていてるのか、水らしきものは無かった。

男に選択肢は無い。
生きる為には、そこに向かうしか無いのである。

つづく・・・

～後書き～
これを小説として公開するのは流石に気が引けました、
携帯ユーザーは、挿絵が見れないだろうから論外となる。
一応、アンケートを設置しているので、皆さんのシビアな感想を教えてください。
m（＿＿）m

もし、良いが、2割にも満たないなら、このやり方での発表は止めます。

物語が2分岐（前書き）

ｈｔｔｐ：／／ｍｙｐａｇｅ．ｓｙｏｓｅｔｕ．ｃｏｍ／ｍｙｐａｇｅｂｌｏｇ／ｖｉｅｗ／ｕｓｅｒｉｄ／５１６２３／ｂｌｏｇｋｅｙ／１２５２９２／

上記のアドレスが挿絵小説の続きです。
挿絵に頼る場合、活動報告を利用するのが楽チンであるので、そっちで書きます。

こっちの本文では、別の物語を書きます。
書きますけど、プロット野晒しみたいな文章なので、小説としての娯楽性は無いと思う。
文章中に、しつこく有名な作品の名前を使って説明しますので、それを知らないと読解は困難だと思います。はっきり言って判る人にしか判らないし、読者を選んでます

物語が2分岐

男は森の中奥へと進んだ。
結構進んだ。汗びっしょり、足はちどり足な感じで「もうダメポ」
という感じになってる。あへあへ状態。

そんな男の前に、光の玉が現れた！
要約してＦＦ１０に出てくる魂風の光の玉である。
ちらほら漂い、男はそれに触れて見る。
すりぬけたー！おどろいたー！
光は森の奥へ進むほど、ふえていく、
そんなこんなで湖が現れたー！
綺麗な感じの湖です。

湖の上にて
女が立っている。これもＦＦ１０に出てるユウナ風。どっちかって
ーとユウナ９才くらいな感じでロリコン系で、きもオタクが好む系
だ。やたー！♪

ーーーーーーーーーーーーーー
ちょっと頭をここで切り替えてください。
上記まで文章は、あくまで作者の目に映る絵を作者の感想で書いて
います事に注目してください。
つまり男は、ＦＦ１０とかＲＰＧを知っている意識状態に居る訳で
ないないのです。
つまり、この物語は作者の目に映るものが物語を説明する描写であ
り、主人公である男の感情はなんら反映していないのである。
ちなみに男のキャラクターイメージはＦＦ１０のアーロンみたいな
渋い系です。この際、２４のジャックバワーそのものでもいい。

ーーーーーーーーーーーーーー
では、本編に戻ります
男はそのロリユウナに魅了された。
ロリユウナは妖精チックに湖上で踊りながら、魂の浄化してます。
男はその踊りに魅入ってました。

我を忘れて踊りに見とれていると、湖のなかから、わに系モンスターが登場。
ロリユウナを食うつもりで忍び寄っている。

あ、こりゃたいへん。
文字のテンションじゃこの大変さは伝わらない程、彼ら役者は大変です。

男は大声をさけんで、危険を知らせた。
しかしロリユウナは聞く耳を持たない。というか理解できてない
男に気づくもののクエスチョンマーク？である。

＜ロリユウナの設定＞
ロリユウナは記憶喪失で名前なし。
何物かは不明。
言語も通じない。
言葉も知らない。
＜＞
上記のロリユウナ設定により、男はロリユウナを助けるベク湖に入る。
しかし、重い、深い、いろいろな要因で、間に合わない。
やっとこロリユウナの手を掴んだ時には既にワニは目の前に、
もう駄目だ。

やられる！
がぶりんちょ
やられましたー！
男の命終了。空しく倒れ、湖が血の色に染まった。
男は色々と心の中で情けない自分を罵っただろう。
あるいは後悔しただろう。
そんでくやしかった。
時間が戻りたいと願った。
願ったその時、懐に入れていた物体ＸＸＸが光、を放ち、３分前へと時間を戻した。

＜物体ＸＸＸの設定＞
このアイテムは所有者がピンチの際、３分だけ時間を戻すという、レアアイテムなのだ。このアイテムの真相は作者でも未だわからん。未知数。
＜＞
そんな訳で、男は時間戻った。
でも、感じた激痛は覚えてる、身もだえてる。夢か現実なのか判らないときのありがちな戸惑いのリアクションを見せながら、周囲を眺めてる。放心状態。
でも助けるべく、飛び込む。ロリユウナの手を引いいて間に合うかと思ったら、更に２匹のワニが現れた。
もう駄目な男は、女の手を解いて自分だけが助かった。
ロリユウナは鬼畜なグロイ死に方で、バラバラになる。
湖のが血の色に染まるのを男はしばし見ていた。
するとワニらのからだが四方八方にくだけ散るり大爆発。
肉片の爆発により空気中が血の霧と粒子に覆われて、男びっくり。
その霧はロリユウナを形作り再生。復活を遂げる。
そして何事も無かったかの様に、湖に立ち、魂を吸い込む踊りを始めた。

＜ロリユウナ設定２＞
ロリユウナは死ねば記憶を失う。。
衣服も全部再生される過程では、視聴者には下着とか裸とかでエロシーンが見れるかもしれない。
＜＞

数時間後
ロリユウナの膝枕で横になっている男は、きょとん顔である。
ロリユウナは男の顔をぺしぺしと叩く。
耳を引っ張る。目を覗き込むなど、などする（生まれて初めて人を見て好奇心してる感じ）

そんな不思議雰囲気の中で男は今までの出来事をナレーションつきで回想した。
男のナレーション例「俺は一体何なんだろうか。　気付いたら俺は海に居て、覚えてなくて・・・訳の判らないあの生き物、そしてあの異常な出来事。全てが夢としか思えなくて、でも、俺はココにいる。そして、なぜか、なぜか・・・」

物語をおさらいしたあと、さっき数時間でロリユウナと何があったのかを見ていく。

ロリユウナのグロキモシーンにて、キーンという耳鳴りな波動が周囲に拡散して世界を揺らすた。耳鳴りで耳を押さえて苦痛そうに男は倒れる。

その後、ロリユウナは男を生まれてはじめて見つけた玩具の様に好奇心をもって研究している。
雰囲気としては、アニメの禁書目録のインデックスというキャラが

とうまに台詞なしで悪戯してるみたいな感じ。鼻引っ張ったり、かぶりついたり。心臓に耳をあててみて鼓動を聞いたり、叩いたり、そりゃもうウザッタイ様に・・・

男は目を覚ます。何かにどつれてる間隔を察知して目を開く。
開いた目に驚いてロリユウナが「おお！」とか一瞬ビックリして驚く。
ロリユウナの顔はまるで生まれて始めて万華鏡を見る様に男の目を覗き込む。

男は、ビックリ、むくっと起きて、ロリユウナにヘディングしてしまう。
お互いに結構痛い。
頭を抑える両者。
男は恐怖し後ろに後ずさる。
少し離れた場所で警戒態勢にはいり、ロリユウナの様子を伺う。
ロリユウナは追いかけてくる。鬼ごっこ風な展開。視聴者男子よ！女子と鬼ごっこは楽しいぜ！
でも、楽しいのはロリユウナのみ。男は恐怖する。
森の中を走り抜ける二人。
ロリユウナは次第に怒る。超能力で空を飛んで立ちふさがる。ロリユウナは恐怖を与える顔つきで、獲物を捕らえるえように・・・
森に男の悲鳴が響く
渋い声で「あああああああああ」となる。それは結構情けない声。

＜場面は地球へと切り替わり。＞
バミューダ海域から少しそれた位置にて船があり（視聴者には判らない。ネタ隠して、どこかの海とする。）
嵐の中、かっぱを被った白人系が大声で、海に落ちた人を捜索する様子（実は主人公はここで何かが原因で遭難して異世界に来たとい

う雰囲気をかもし出す）

＜ニュースが流れる＞
内容はフロリダ島の海岸沿いの長期ヨットレース中に、一つのヨットが進路を変えてコースを外れた。
ヨットレースの主催者によるとレースの参加者からの定時連絡が取れない事で、身に何かが起こったと想定され、雨の中、船で捜索が行われた。失踪したヨットを見つける事はできたものの、ヨットには誰も存在していなかった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7698j/

これをファンタジー小説と呼んでもいいですか？

2011年10月6日05時30分発行